

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

教務委員会 および 星薬科大学FD委員会

(責任者名) 東 伸昭 / 阿川 敏恵

(役職名) 教務部長 / FD委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムの履修内容は、数理・データサイエンス・AI教育(リテラシーレベル)の要件を満たしていると評価している。</p> <p>薬学教育モデル・コア・カリキュラムが令和4年度版として改訂されたことをふまえ、令和6年度からは生成AIなどAIに対する対応方法や倫理面などを取り入れるようにしている。本プログラムに関する履修・修得の状況については教務委員会及び星薬科大学FD委員会にて確認を行う。具体的な確認、点検作業については教育改革を行う組織であるFD委員会にて行う。プログラムを構成する科目はすべて必修科目であるため、履修率について問題となることはなく、単位修得状況のみを確認することになる。</p>
学修成果	<p>本学ではすべての授業科目に対して、学期終了時に「授業評価アンケート」を実施している。アンケート項目は、学生自身が「目標を明確に意識する」「主体的に学修に取り組む」「その成果を自ら適切に評価する」「さらに必要な学びに踏み出す」という点に焦点をあて、受講生の自律的学修状況を教員にフィードバックすることで学生の学修成果を把握し、今後の教育内容の改善に活用している。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>上記「学修成果」の項目に記載したものの中に、各回の内容や課題作成についてどこまで理解できたかを段階別評価で回答してもらっており、それによって学生の理解度を把握している。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>現在実施している「授業評価アンケート」では、当該科目を後輩に薦めるかどうかといった項目を置いていない。しかし、本プログラムを構成する科目はすべて必修科目となっているため、後輩等他の学生への推奨度を調査する必要はないと考える。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>本プログラムを構成する科目はすべて必修科目となっており、履修しないと進級できないため履修率は100%となる。</p>
<p>学外からの視点</p>	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>本プログラム開始は令和5年度であり、卒業生が社会に出るのは令和8年度以降となる。現時点ですでに卒後調査の実施がされており、可能な範囲で活躍状況等の調査を実施する予定である。また、キャリア教育等で企業の担当者と接する機会があるので、その際に卒業生の評価を訊ねたい。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本プログラムに対して産業界から直接意見をもらうといったことはこれまで行っていない。しかし、令和7年度から本プログラムに追加される科目「データサイエンスの基礎と応用」の中で行うオープンイノベーション研究会においては、キャリア教育を通して産業界との交流が見込まれており、意見を求める機会を設けたいと考えている。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本プログラムの授業科目の導入において、時事的なトピックを交えて、数理・データサイエンス・AIを学ぶ意義等について理解を深めるよう取り組んでいる。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>授業内容については、年度ごとに担当教員が確認を行っており、教材のリニューアルなどコンテンツの充実を行うこととしている。</p>